トンボ目カワトンボ科

ヒガシカワトンボ

青森県：C
環境庁：該当なし

上：橙色型雄、下：雌　　奈良岡弘治撮影

体長46～56㎜で、全体が金属緑色をしています。成熟すると雄は白っぽくなります。また、雄のはねの色には変異があり、透明なもの（透明型）と、先端2/3が橙色のもの（橙色型）があります。一般に透明型が多く見られます。北海道、関東以北の本州に生息しています。1960年頃までは県内各地にたくさんいましたが、最近少なくなり、なかなか見られません。低地から高地の清流に生息していて、成虫は5月末から8月末まで見られます。

奈良岡

トンボ目サナエトンボ科

ミヤマサナエ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治所蔵

体長52～56㎜で黒地に黄斑（おうはん）があります。
後脚がいちじるしく長く、第7～9腹節が広くなっているのが特徴です。本州・四国・九州に分布し、1960年頃までは県内各地にいましたが、現在は少なくあまり見られません。幼虫は流れのゆるやかな河川の砂や泥に潜っています。成虫は7月に羽化して山地に移動し、成熟してから平野部の河川におりてきます。9月まで見られます。河川の改修などで、川底が変化すると絶滅の危険があります。

奈良岡

トンボ目サナエトンボ科

ホンサナエ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治所蔵

体長48～52㎜のずんくりした中型のトンボです。黒地に黄斑（おうはん）があり、胸の前面に太い一対のL字状黄紋（ちん）を持っています。（雄の腹端の上部付属器は下に湾曲しています。）北海道から九州にかけて分布しています。1960年頃までは県内各地、特に水田に普通でしたが、最近は発見記録がありません。津軽地方では絶滅したと考えられます。

平地や低山地の流水や沼に生息し、成虫は春早く5～6月に出現します。全国的に減っています。

奈良岡

トンボ目サナエトンボ科

オナガサナエ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　青森県立郷土館所蔵

体長56～62㎜の大型のサナエトンボで、黒地に黄斑（おうはん）があります。（雄の腹端の付属器が長く、湾曲しています。）日本特産種で本州・四国・九州に分布しますが、東北地方では少ないトンボです。

県内では三戸郡や八戸市だけから知られています。しかし、1988年を最後に発見されていません。平地や低山地の河川に生息しています。成虫は関東地方では6月から10月に見られますが、県内では7～9月に記録されています。

奈良岡

トンボ目サナエトンボ科

ヒメサナエ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

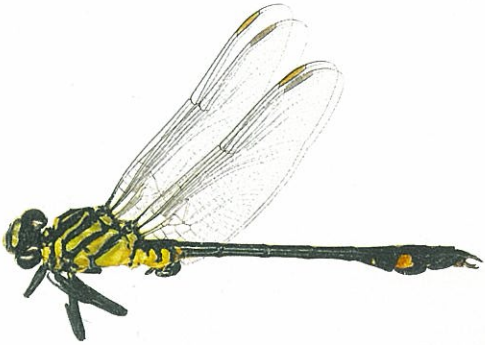
体長40～49㎜の小型なサナエトンボです。黒地に黄斑（おうはん）があり、雄の腹端の上付属器は白色です。日本特産種で本州・四国・九州に分布しています。東北地方ではまれな種類で、県内では蟹田町と深浦町の山中の清流で発見されているだけです。
幼虫は砂や石の下に潜んでいて、つかむと硬直し、擬死を装います。成虫は6月下旬から羽化し、8月末まで見られます。最近、個体数が少なくなっており、絶滅が心配されます。

奈良岡

トンボ目サナエトンボ科

メガネサナエ

青森県：A
環境庁：該当なし



雄　　奈良岡弘治所蔵

体長56～62㎜の中型のトンボです。第7～9腹節が膨らんでいてミヤマサナエとよく似ていますが、第8腹節背面にも黄斑（おうはん）があること、後脚が他の脚より少し長い位であることなどで区別できます。日本特産種で東北地方から近畿地方に分布しています。県内では1960年頃までは各地の平地の河川にいましたが、その後に少なくなり、現在は確実な産地は知られていません。成虫は7月から9月にかけて見られます。

奈良岡

トンボ目ヤンマ科

コシボソヤンマ

青森県：B
環境庁：該当なし

産卵する雌　　奈良岡弘治撮影

体長70.5～76㎜の中型のヤンマで、茶褐色の地に黄斑（おうはん）があります。第3腹節が細まっています。はねの先端が淡い褐色です。日本特産種で、本州・四国・九州に分布し、平地や低山地の木陰の多い清流に生息しています。1960年頃までは県内各地に普通でしたが、現在は山地の清流にまれに見られるだけです。成虫は7月中旬から9月末まで見られます。早朝と夕方に活動する習性があります。幼虫はつかむと硬直し、擬死を装います。

奈良岡

トンボ目ヤンマ科

カトリヤンマ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄（千葉県産）　　奈良岡弘治所蔵

体長70～74㎜の第3腹節がいちじるしくくびれた中型のヤンマです。茶褐色と緑色をしており、腹部に黄斑（おうはん）を持っています。成熟すると雄の第2腹節が鮮やかな水色となります。北海道南部から南西諸島まで分布しています。県内では1960年頃までは各地に見られましたが、1993年以後はまったく発見されていません。平地や丘陵地の湿地や沼に生息し、成虫は8月から10月まで見られます。早朝と夕方に活動する習性があります。

奈良岡

トンボ目ヤンマ科

サラサヤンマ

青森県：B
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長59～62㎜で黒地に黄斑のある小型のヤンマです。雌ははねに黄褐色斑をもつ個体がいます。日本特産種で北海道から九州にかけて分布しています。県内では少なく、現在は鰺ヶ沢町・中里町・平賀町などで確認されているだけです。

成虫は春早く5月下旬から出現し、7月まで見られます。主に低山地の林間の湿地に生息しています。幼虫は落葉などに覆われた湿った地面や、浅い水溜まりに生息しています。

奈良岡

トンボ目ヤンマ科

ヤブヤンマ

青森県：A
環境庁：該当なし

雌　　山田雅輝撮影

体長81～87㎜の大型のヤンマで、黒褐色の地に黄斑があります。成熟すると雄では複眼がコバルトブルーに輝き、黄色部が緑や淡い青色に変わります。本州以南、沖縄まで分布し、1950年頃までは県内各地にいましたが、その後ほとんど発見されていません。最近では鰺ヶ沢町・板柳町・弘前市で確認されています。成虫は7月から9月に見られ、幼虫は丘陵地や低山地の池・沼に生息しています。早朝と夕方に活動する習性があります。

奈良岡

トンボ目エゾトンボ科

コヤマトンボ

青森県：B
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

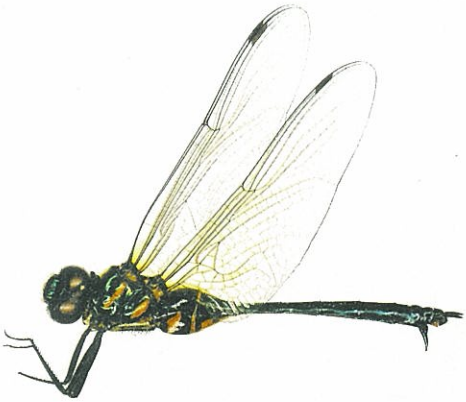
体長68.5～74㎜の中型のトンボで、黒地に黄斑を持っています。近似種のオオヤマトンボは平地の池、沼に普通ですが、本種はこれより一回り小さく、頭部前面の黄色紋が一個であることなどで区別できます。本州・四国・九州に分布し、北海道には別亜種がいます。1960年頃までは県内各地の河川や池沼に普通でしたが、現在は低山地の河川や沼・湖に限られ、個体数も少なくなっています。成虫は6から8月末まで見られます。

奈良岡

トンボ目エゾトンボ科

ハネビロエゾトンボ

青森県：A
環境庁：該当なし



雌　　奈良岡弘治所蔵

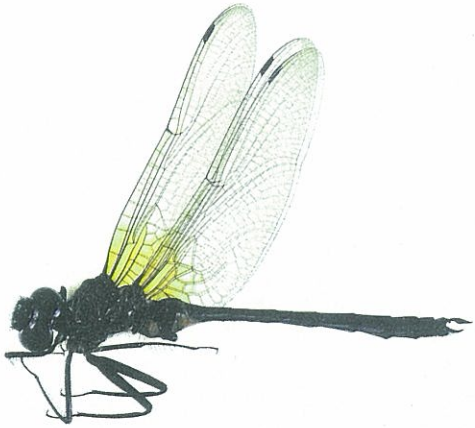
体長56～60㎜で金属緑色の地に黄斑を持っています。エゾトンボとよく似ていますが、腹部側面に黄斑がなく、雌の産卵弁は下方に突出して先端が前方に湾曲しています。日本特産種で北海道から九州まで分布しますが、産地は限られています。県内では1960年頃までは各地にいましたが、1989年に東通村で確認されてから発見されていません。幼虫は主に低山地の湿地の清流に生息し、成虫は7月から9月にかけて見られます。

奈良岡

トンボ目エゾトンボ科

キバネモリトンボ

青森県：A
環境庁：該当なし



雄　　伊藤智所蔵

体長51～57㎜で金属緑色の地に黄斑（おうはん）を持っています。はねのつけねが橙黄色をしています。日本特産で、北海道と青森県・岩手県・新潟県など、本州の一部に分布しています。県内では三戸郡・八戸市・上北郡から数個体が記録されているだけで、個体数も多くありません。しかし、1999年には六ヶ所村で10数個体が目撃されています。幼虫は寒冷な平地や丘陵地の池沼・湿地に生息しています。成虫は8月と9月に発見されています。

奈良岡

トンボ目トンボ科

ショウジョウトンボ

青森県：B
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長47～50㎜で若い成虫は橙黄色ですが、成熟すると雄は全体が真っ赤になり、雌は茶褐色となります。北海道南部から九州まで分布しています。1960年頃までは県内各地に普通に見られましたが、その後少なくなってしまいました。ところどころに発生地がまだ残っていますが、個体数の少ない所がほとんどです。平地の池・沼・水田などに見られます。成虫期間は6月下旬から8月末です。まれに9月でも見られることがあります。

奈良岡

トンボ目トンボ科

カオジロトンボ

青森県：C
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長31.5～38㎜で黒地に黄褐色、または赤褐色の斑紋(はんもん)があります。顔が白くなっています。北海道と本州山岳地帯に分布しています。県内では八甲田山系だけに生息しています。しかし、1960年頃から少なくなり、生息地域も狭くなっています。主にミズゴケ湿原や水生植物が繁茂する沼などに見られ、成虫期間は6月下旬から8月末までです。高層湿原の踏みつけによる乾燥化や水質汚染などで絶滅する危険があります。

奈良岡

トンボ目トンボ科

ハッチョウトンボ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長17～19㎜の日本で最小のトンボです。若い成虫は橙黄色ですが、成熟すると雄では全体が真っ赤になり、雌ではやや黒っぽくなります。本州・四国・九州に分布し、県内でも広く見られます。しかし、水のきれいな湿地にしかいません。開拓などにより、現在は生息地が非常に少なくなりました。個体数もいちじるしく減っています。成虫期間は5月末から8月末です。まれに休耕田で発生することがあります。

奈良岡

トンボ目トンボ科

ハラビロトンボ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長31.5～36㎜で腹部が平べったいトンボです。若い成虫は黄褐色の地に黒斑（こくはん）を持っています。雄は成熟すると胸部が黒色、腹部が青白くなります。はねのつけねは黄褐色です。北海道南部から九州にかけて見られ、平地や丘陵地の沼や湿地に生息しています。1970年頃までは県内各地の湿地に普通に見られましたが、現在はほとんど見られません。三沢市や上北郡の一部には多産します。

成虫期間は6月中旬から8月末です。

奈良岡

トンボ目トンボ科

シオヤトンボ

青森県：B
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長38～44㎜で、黄褐色の地に黒斑（こくはん）を持っています。雄は成熟すると青白くなります。シオカラトンボに似ていますが、一回りほど小さく、腹部がやや太く短かくなっています。北海道から九州にかけて分布し、主に丘陵地や山地の湿地・水田などに見られます。1970年頃までは県内各地に普通でしたが、現在は産地も少なくなり、個体数もいちじるしく減っています。春早く出現するトンボで、成虫期間は5月から7月です。

奈良岡

トンボ目トンボ科

オオシオカラトンボ

青森県：B
環境庁：該当なし

雄　　奈良岡弘治撮影

体長49～54㎜で黄色の地に黒斑（こくはん）があります。成熟すると雄は全体が青白くなり、雌は褐色のしぶい色となります。シオカラトンボに似ていますが、少し大きく頑丈な感じがします。北海道から南西諸島まで広く分布しています。県内でも1960年頃までは各地の山間にいましたが、現在は生息地、個体数とも非常に少なくなっています。幼虫は丘陵地や山地の沼や湿地に生息し、成虫は7月から8月に見られます。

奈良岡

トンボ目トンボ科

チョウトンボ

青森県：A
環境庁：該当なし

雄　　安藤一次撮影

体長33～35㎜の全体が黒い小型のトンボです。はねが広く黒っぽい金属緑色、あるいは紫がかった藍色に輝いています。チョウのようにひらひらと飛び回ります。本州・四国・九州に分布します。県内では今まで数個体が発見されているだけでした。ところが2000年の夏に各地で多数の個体が確認されました。他の県の発生地から移ってきたのかどうかは分かりません。平地の池、沼に生息し、成虫は関東では6月から9月に見られています。

奈良岡